

活動報告書

1 団体名 @は一もにあかふえ
2 活動内容 ・発達障害などで生きづらさを抱える人々やその周りの人々が、地域社会で支え合い、共に生きることを目指し、地域の課題に取り組むことで、社会参加の促進や偏見や差別の解消を目指した。 また、発達障害などで生きづらさを抱える人々と地域社会との共生を促進することを目的とした。 ・発達障害などで生きづらさを抱える人々、その家族や支援者、地域住民を対象に活動を行った。 ・協働、ボランティアの機会の提供、自立支援、就労支援、こころとからだの支援などの活動を行い、発達障害のある人々が地域で安心して生活できるよう支援した。また、地域住民との交流や啓発活動を通じて、地域全体で発達障害に関する理解を深めることも目指した。具体的な活動内容としては、発達障害当事者が安心して参加できる交流会やワークショップの開催、地域住民や企業との連携・協働による認知度向上のための啓発活動、発達障害に関する情報発信や相談支援の提供などを行った。
3 活動期間 令和5年 7月 6日から 令和6年 3月 31日まで
4 活動実施内容 1. 茶話会の開催(7月～3月 月1回 計9回) 2. ワークショップの開催(8月～3月 月1回 計8回) 3. コミュニティ交流会の開催(8月、10月、12月、2月 計2回) 4. 講演会の開催(a.11月 発達障害について考えるminiフォーラム b. 3月 発達障がい啓発週間プレ講演会)各1回 計2回
5 活動の成果 1. 茶話会は3～5人参加のものだったが、認知度が上がり、最後の方には満席となった。 2. ワークショップでは、他県の当事者会主催者にオンライン講演をして頂き、県外にも同じような人がいること知り、参加者に安心感を与えることができた。 また、様々な発達障がいに関することを取り扱うことで知識や自己理解、相互理解を促進できた。 3. 講演会では別府市外からもたくさん参加いただき、発達障がいに興味関心があることが確認できたとともに、啓発活動が大きくなったと思われる。 4. 大分合同新聞に計3回取り上げて頂き、当団体や活動への周知や認知度向上につながった。 5. 活動を通して様々なつながりが増え、今後の活動につながることが期待される。
6 反省点や今後の目標 ・コミュニティ交流会は事業所・作業所に通所している方対象で開催したが、参加者は全体通してゼロ人であった。これは事業所や作業所は土曜日にも通所があり、わざわざ休んでまで参加するのが難しかったと思われる。また障害者就業・生活支援センターでピアサポートや就業者向け交流会を始めており、こちらに参加しているものと思われる。既にあるものをより利用してもらいたい、また事業所・作業所内に交流会ができることを願いつつ、来年度は親の会、家族会をやってみたい・参加したい人に対象を変えて行うつもりである。 ・ワークショップは当事者の参加が多かったが、より色んな方に参加してもらおうべく、内容の充実や参加しやすいテーマを取り扱いたい。1番経費がかかった活動であったため、費用対効果をしっかり考慮したうえで企画立案したい。 ・講演会は色んなつながりができやすく、啓発活動としてもおおきな効果が得られると分かったので引き続きニーズにあった演目で開催したい。

様式第10号 (第10条関係)





